井筒和幸講演会開く

年の瀬も迫る昨年１２月１６日(日)、新居浜市民文化センターで人権講演会が開かれた。

演題は「井筒監督、いのち・くらし・人権を語る」で、講師は高校在学中から映画作りをはじめ、２００５年度は、ブルーリボン最優秀作品賞を受賞した映画『パッチギ！』の監督。

講演は、ステージの上にMCネットワークの、菊川三紀子さんとテーブルをはさんで座り菊川さんの語りかけに井筒監督が応えるという形式で進められた。

「人権という肝心なテーマで話すとね、若者はホントに、単に生きているというか、生活権がおびやかされている。それがずっと続いている」「お金もなく、安いものを探して生きているのに、税金上げてどうする」と語り、松山での『差別をなくする県民のつどい』で統計資料をもとに講演した湯浅誠さんと共通する課題を示された。

そして映画については、「ものの価値として考えると、映画は芸術であり、実用である。人生の実用になっているか、足しになっているかが問題」と『実用』という言葉にこだわる。日本人と在日朝鮮人との問題を扱った映画に話題が移ると、「知ることによって実用になる。知らないと理解も生まれない。自分の心、知る力が大切です。」と続く。「岡山で、自分の差別する心が原因で別れた女の子、この映画を見た今、帰り道泣きながら、別れた男の子に電話したいという気持ちになっている。これ、映画の実用でしょ」と話し、会場から拍手が湧いた。

さらに話題が、日中、日韓、平和問題に及ぶと「今、いやなキナクサイにおいがする。開戦は簡単、でも開戦したら止められない。原発の再稼働も同じ。簡単、そして止められない。」と世の中のご意見番としての、鋭い眼差しから繰り広げられる話題に、会場の人々は引き込まれていった。

瀬戸会館だより
平成２５年２月号
新居浜市瀬戸会館
〒792－0821
新居浜市瀬戸町7−30
E-mail
seto@city.niihama.ehime.jp
℡０８９７
４１－５８５９
（FAX 兼用）

2月公演
回転木馬
おはなし会
2月6日予定
10:00~11:00
瀬戸児童館

教室紹介～篆刻教室～

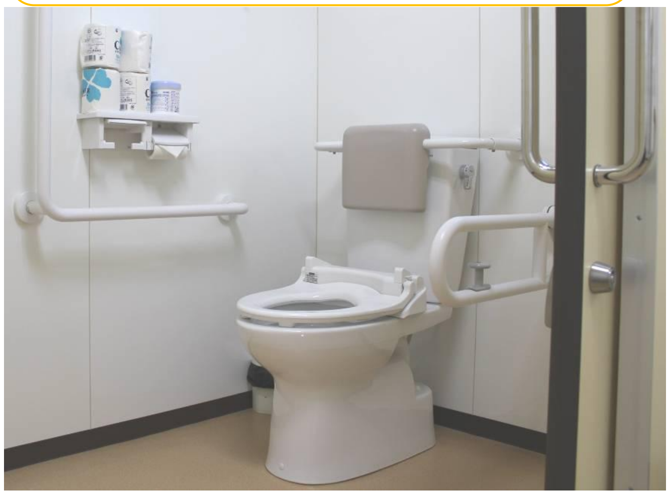
平成２２年１０月から毎月２回行われている篆刻(てんこく)教室

篆刻とは、印章（はんこ）によくつかわれている「篆(てん)」という書体の漢字、これを石に刻んで印章を作ることです。よく書画に押されている印章です。教室の生徒さんは、５人。取材した日は都合がつかない人が多く、先生を入れて３人でした。生徒のお二人は日本画を描かれており、その作品に押印されるそうです。何よりも自分で彫った印を、自分の描いた日本画に押す時の気持ちは、喜びとともに満足感を味わえる瞬間だとか。年に一度瀬戸会館で行っている『であい展』では、篆刻教室の生徒さんの作品が光ります。同じように彫っていても、線の彫りかた一つ一つがみんな違って、それぞれに味わいがあります。

先生の言われるには、「小さな方形の中に作者の個性が伺える」とのことでした。作業中は拡大鏡を通して彫刻刀の刃先に精神を集中。緊張感の漂う空間です。初心者でも数カ月で一応は彫れるようにはなるそうですが、極めるにはなかなか奥の深い篆刻だということでした。

拡大鏡を使って

改修工事進む！
ご協力ありがとうございます。
女子トイレできました。



廊下天井張替・灯りの増設
廊下　明るくなりました。

人権あらかると

差別になっている

林　力　　九州大学非常勤講師

誰も気づかないのかと思う。大きな駅のトイレのこと。例えば、博多駅の場合は、構内商店街に向かう通路がある。その両側の左手に男性、右手に女性のトイレが設置されている。このトイレに女性たちがあふれて行列をつくる光景をよく見る。これはこの駅だけのことではない。人混みの中で全国どこでもあることだ。男性の小さいほうは１～２分でこと足りるが、女性はそうはいかない。それなのに男性と同様の敷地、数少ない便器、それが問題なのだ。これがあたりまえと受け取り、仕方ないとあきらめている。これが日本人の平均的な平等感だ。

同和教育運動の初期の頃、高知県の谷内照義先生から多くのことを学んだ。部落出身の方で、自らに厳しく、他人に優しい人であった。「林さん、『差別している』『差別されている』ということだけが問題ではないのですよ。主観を超えて『差別になっている』という視点が大切なんです。」と教えられ、一つの不透明な幕が消えていく思いをしたことを忘れない。

ある冬の寒い日、耐えきれなくなった中年の女性が男子用トイレに駆け込んできた。「すみません、すみません」を連発。幸い男性の大きいほうは空いていた。彼女があわただしく飛び込んだとき、男性の一人が聞こえよがしに「女もばあさんになったら、あつかましいねえ」と声をあげた。いくつかの小さな同調の笑いがあった。

差別・被差別の関係はすべて被差別の側が黙許していたら解決の糸口さえない。黙っていたら男女共同参画社会など、政治的スローガンに終わってしまうに違いない。

林　力『人権５０話』（解放出版社）より
都合により当方で一部割愛させていただきました。

「人権のつどい日」にひろう

１月１１日（金）は「泉川まちづくり協議会生涯学習部会活動から」と題して、同部会の野本敏久さんから話を伺った。講師の話では２００８年４月から「住民が地域課題を自ら発掘して、自分たちの地域主導型の公民館にしよう」ということで、そのための「町づくり協議会」という組織づくりに着手。先進地高松の公民館などを参考に２年間の調査準備期間を置き、２０１０年４月に協議会は正式に発足し、８部会を設けた。そのひとつが生涯学習部会。

講師は「私たちには地域課題がかなりあり、それを解決するためには先ず勉強。月１回いろんなテーマを勉強している」と話す。そのひとつが住みやすい町づくりを目指して人権問題を取り上げる。最初は川之江から宮内則人さんを招いて「私の幸せ、みんなの幸せ」のテーマで研修。次いでハンセン病問題のＤＶＤ『風の舞』で研修、そして国立療養所「大島青松園」に行き現地で研修を深める。

また、「人権の根幹は『命』。その命を守るという観点から子どもの通学路の点検」を考えた。その結果危険な個所を発見し、『右側通行』を、今そこでは「登下校とも道の西側を通る」よう見直したという。さらに地域の安全マップづくりへと活動が続いている。

大島とうど祭り　～人々を結ぶ暮らしの行事～

新居浜市唯一の離島「大島」で行われる伝統行事「とうど祭り」が今年も１月１４日早朝、島内５地区において行われた。

朝５時３０分黒島発の渡海船臨時便で大島にわたり、先日お邪魔した地区をふたたび訪ねた。地域の皆で作りあげた“とうどさん”は、昨日から続く強い風雨に耐え、早朝の暗闇の中、天頂の大幟をしならせながらもしっかりと立っていた。

午前６時点火！の予定であったが、自治会長さんの判断で風がおさまるのを待つ。冷たい雨の中、子どもたちもその時を待ちかねたように集まってきた。約２０分経過、自治会長さんの合図で、いよいよ点火。雨にさらされた外周の笹竹は、なかなか火の勢いがあがらない。それでも、根気よく火を操りながら、互いに声をかけ合い作業に当たる。

毎年繰り返される伝統行事が、地域に暮らす人々のつながりを一層豊かに育み、より確かなものとして、次代につなぐ大きな役割を果たしているように思われた。周りの景色が彩りを見せ始めた頃、家内安全、無病息災、大漁・豊穣の願い宿した正月のしめ飾りも“とうどさん”の炎とともに、天に届け終えたかのように静かに小さくなった。

2月の主な行事予定

6･20日（水） ― 移動図書館

11日（月） ― 人権のつどい日　～ハートFULL新居浜～

人権劇「トモダチってなに？」

市民文化センター中ホール　　13:30開演　入場無料